

3 自由記載の回答のデータベース化

本調査の根幹をなす質問は、「がんの診断、治療を受けて悩んだこと」、「悩みや負担等の軽減のための要望・支援」の二点で、これについては自由記載で回答を求めた。

アンケート調査の実施という観点からは、自由回答方式は、回答者が、自分の思いを文章化せねばならないため、回答に時間と労力を要するという欠点を持ち合わせている。しかし、今まで医療者が知ることが少なかった、体験者の退院後の日常生活や周囲の人との関係など体験者自身の口から語ってもらうため、あえて使用したものである。医療機関での調査においては、回答者から署名された同意書を得る過程で、本調査の趣旨や特徴について詳細な説明をすることで、回答者の理解が進み、予想よりも詳細な回答が寄せられた。

一方、自由回答方式による回答は、調査結果の分析においても大きな労力が必要となる。今回は、自由記載部分から回答者の主張を抽出し、それを分類し、解析することにした。

分類方法は、まず、7,885 通の回答のうち、自由記載された文章の中から悩みや負担に関するキーワードを拾い上げた。回答一通あたり、3~4 件のキーワードがあるため、最終的には 25,952 件の悩みや負担に関するデータが抽出された。個々のデータは、悩みや負担について、数十文字の短文からなっている。

次に、これらのデータを分類・ラベル化し、最終的には大分類 15 項目、中分類 35 項目、小分類 129 項目、細分類 623 項目からなるデータベースが構築された。図 3-1 には、例として大分類「生き方・生きがい・価値観」をとりあげ、データベースの構成を示した。また、補遺 1 には、すべての、大分類、中分類、小分類、細分類の項目をまとめて示した。

図 3-1 データベースの構成例

